

序

奈良文化財研究所と大韓民国国立文化財研究所との共同研究は、同じような遺跡や文化財をもち、その保護のための研究に従事する両研究所が、相互の交流を通じて研究の向上を図ろうとの目的で、1999年11月に始まりました。以来、5年間にわたり互いの発掘現場に若手研究者を参加させたり、各分野の研究者の交流をおこなったりしてきましたが、これらを通して研究者が相互に刺激を与え合い、また日韓両国の研究状況を具体的に知ることができたことは大きな意義をもつものでありました。

さて、2005年12月からは、新たに「日本の古代都城並びに韓国古代王京の形成と発展過程に関する共同研究」のテーマを設定し、共同研究の新段階に入りました。そこで、これを機に、これまでの共同研究、交流の成果を両国研究者の論文集の形でまとめることとしました。

本論文集には、古代都城・王京の形成と発展にかかわるさまざまな角度からの研究に加え、遺跡の保存と整備にかかわる論文も含まれ、文化財の保護のための研究をテーマとする日韓両研究所の論文集にふさわしい内容となっております。

両研究所の共同研究は、今後とも継続していく予定ですが、その分野は、考古、歴史、建築、庭園、遺跡整備、復原、そして保存科学など多岐にわたっております。その成果の公表も随時はかってまいる所存で、本論文集は、その出発点となるものであります。

本書が、今後の日韓両国文化財研究所の共同研究の一層の進展につながれば幸いです。

2007年 12月

独立行政法人国立文化財機構
奈良文化財研究所長
田 辺 征 夫